

企画展

水俣病に向きあった医師たち

水俣病の公式確認から57年、今も続く、長い水俣病患者の活動には、一貫して患者側に寄りそい、支援した医師たちがいました。彼らは病気と差別に苦しめられていた患者のよりどころとなり、裁判では「水俣病とはなにか」を医学的に立証し、その勝利に貢献してきました。

本展は、患者に寄りそい、弱者の側に立ちつづけた医師たちに焦点をあてて、水俣病問題の今とこれからを考えようとするものです。

【展示構成】

- 1 水俣病事件と医師たち
- 2 水俣病に50年向きあった原田正純医師
- 3 チッソ水俣病関西訴訟と阪南中央病院

【展示解説】

- 日時 11月9日、30日 14時～16時
11月16日（シンポジウム当日）11時～12時
- 解説者 村田 三郎（阪南中央病院副院長・内科医）

2013年

11月5日（火）～12月19日（木）

主催 阪南中央病院
阪南中央病院労働組合
大阪人権博物館

後援 熊本学園大学水俣学研究センター

会場 大阪人権博物館 総合展示室ゾーン2

開館時間 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）
土曜日のみ午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 11/11、18、22、23、25、12/2、9、16

入館料 大人 500円（400円）大高生 300円（200円）
中小生 200円（100円）65歳以上 300円（200円）
（ ）は団体割引（20名以上）
障害者（介助者含む）無料

※シンポジウム当日は入館料無料（「関西文化の日」のため）

問い合わせ Tel.072-331-1919（阪南中央病院労働組合）
Tel.06-6561-5891（大阪人権博物館）

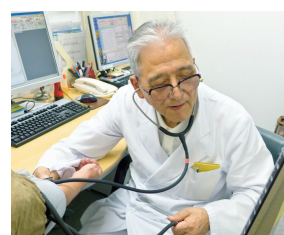
シンポジウム

水俣病に向きあった医師たち ～今とこれから～

- 日時 11月16日（土）
午後1時30分～4時30分（開場午後1時）
- 場所 リバティホール（大阪人権博物館内）
- シンポジスト…
- 三浦 洋（阪南中央病院理事長・内科医）
 - 斎藤 恒（新潟医療生協木戸病院名誉院長）
 - 花田 昌宣（熊本学園大学水俣学研究センター長）
 - 山口 紀洋（弁護士〈溝口訴訟、第二世代訴訟〉）
 - 田中 泰雄（弁護士〈水俣病関西訴訟、F氏訴訟〉）
 - 谷 洋一（水俣病被害者互助会事務局長）
- コーディネーター…
- 村田 三郎（阪南中央病院副院長・内科医）
- 参加費…無料



原田 正純 医師
水俣病と向きあって50年。「胎児性水俣病」を証明。裁判でも患者の側に証言台に立ち続けた。『水俣病』など著書多数。元熊本学園大学教授。2012年6月逝去。



斎藤 恒 医師
1965年から新潟水俣病患者の診察、新潟県民団体水俣病対策会議初代議長をつとめ、新潟水俣病第一次、二次、三次訴訟で一貫して患者を支え続けてきた。



三浦 洋 医師
1978年以来、阪南中央病院で関西の水俣病患者の検診体制を整え、チッソ水俣病関西訴訟医師団として原告を支え続け、二度の最高裁勝訴判決に関わった。

 **リバティおおさか**
大阪人権博物館

〒556-0026 大阪市浪速区浪速西3-6-36

JR環状線「芦原橋駅」下車、南へ約600m

JR環状線・大和路線「今宮駅」下車、西へ約800m

大阪市バス「浪速西3丁目」バス停下車、西へ200m

南海汐見橋線「木津川駅」下車、東へ300m

ホームページ <http://www.liberty.or.jp/>

